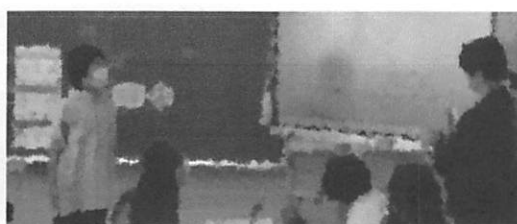


第75次 印旛地区教育研究集会
技術・家庭科（家庭分野）

研究主題

日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成



第4部会 技術・家庭科研究部
八街市立川上小学校 小山 和佳
八街市立実住小学校 西崎 夏芽

研究主題

「日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成」

1. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領・今日的な教育課題

小学校学習指導要領家庭編では、小学校家庭科の目標を次の通りとしている。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して」とは、衣食住や家族の生活など家庭生活に関する具体的な内容を主な学習対象として、調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、実感を伴って理解する学習を展開することを示している。

また、そのような授業を展開することにより、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、知識及び技能を活用して、身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるようにすることを目指している。

本主題は、日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付けることにより、児童一人一人がよりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて家庭生活を工夫・創造しようとする実践的な態度を育成することができるであろうと考え設定した。予測困難なこれからの社会を生き抜くためには、学んだことを活用し、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成は不可欠であると考え。

(2) 今日的な教育課題

現代社会は、少子高齢化、グローバル化、そして AI をはじめとする技術革新によって社会の構造や雇用環境が大きく変化している。これに伴い、家庭生活も大きく変わっており、かつては家庭や地域で自然と身につけていた実践的な知識や技能を子どもたちが学ぶ機会が減ってきている。

そのような中でも、子どもたちは家庭科の学習に高い関心を持っている。この子ども達の興味・関心の高さを生かし、学校教育において意図的かつ計画的に、そしてより実践的な学習機会を確保することは、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成にとって、大変重要である。

家庭科で学ぶことは、単に料理や裁縫といった技能だけではない。衣食住、消費、家族関係、環境問題など、生活全般に関わる知識と実践的な力を育むことができる。これらは、子どもたちが変化の激しい社会を自立して生き抜くための「生きる力」につながっていくと考える。

2. 児童・地域の実態

(1) 地域の実態

千葉県八街市は県北部に位置し、南北に広く、人口約 6.9 万人の市である。県の代表的な畑作地帯で、「落花生」をはじめ野菜栽培の他、畜産も盛んである。日本有数の落花生生産の中心地で、防風林と落花生の野積みが行われる特徴的な風景が見られる街である。落花生の加工工場のほか各種工場も立地し、落花生のお土産屋が軒を連ねている。その中でも、市の北部は核家族の世帯が多く、市の中心部は都心からの移住者が多い。市の南部は昔から住んでいる人が多い。

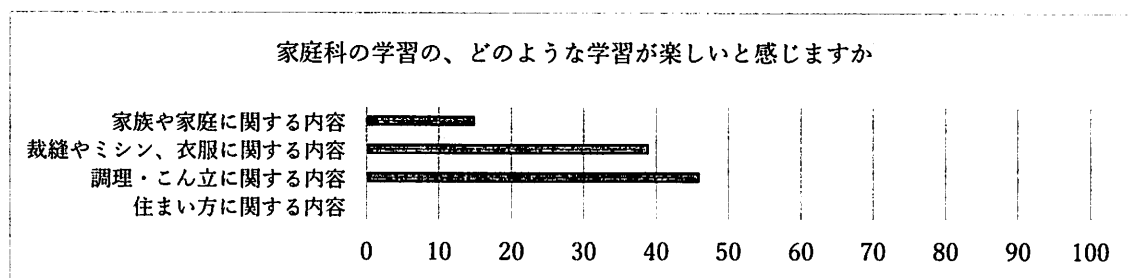
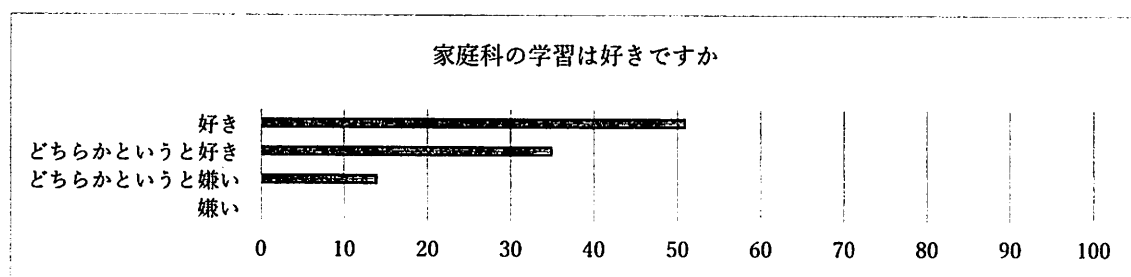
川上小学校は、八街市の南部にあり、広々とした畑作地帯が広がり、農業が盛んに行われている。川上小学校の学区は、一部の地区を除き、ほとんどが昔ながらの古い集落で構成されている。また、地域で農業を営む方々が「畑の先生」として、児童たちに落花生をはじめとする各種野菜や稲の栽培方法を教えている。苗の植え方から収穫までを地域の方々と共に行うことで、農業への理解や食に対する関心を深めている。

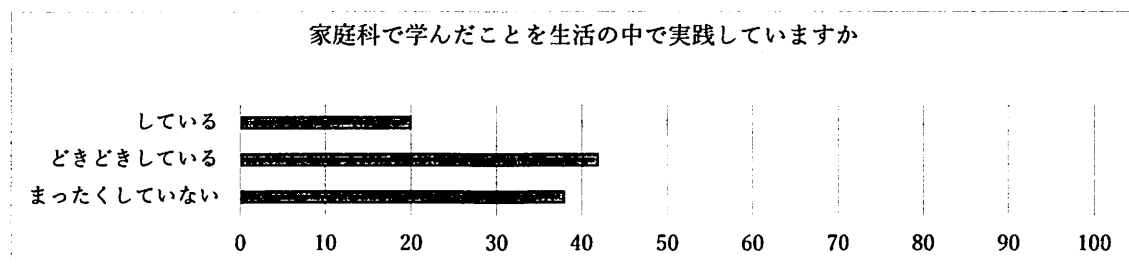
実住小学校は、八街市の中心部にあり、市街地と農地が入り混じった地域で、住宅地や公共施設が多く立地している。東側には国道 409 号線が通っており、車での移動に便利な幹線道路へのアクセスが可能である。北側には八街駅があり、駅周辺には商業施設が集積している。一方、南側には田園地帯が広がり、農道や落花生畑など、自然豊かな風景が見られるエリアとなっている。

(2) 児童の実態

児童の実態調査のために事前アンケートを行った。

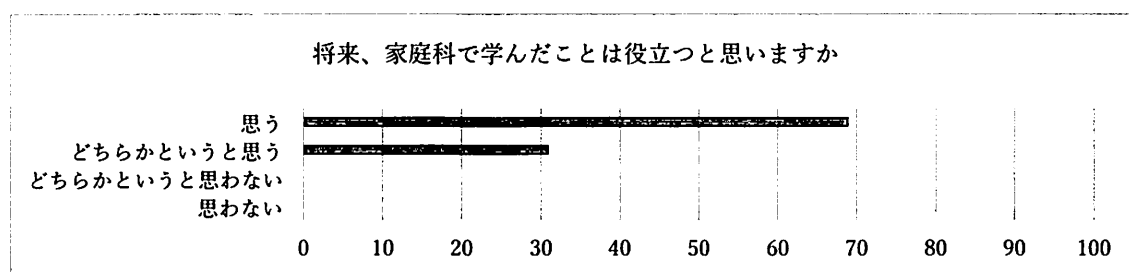
八街市立川上小学校第 5 学年



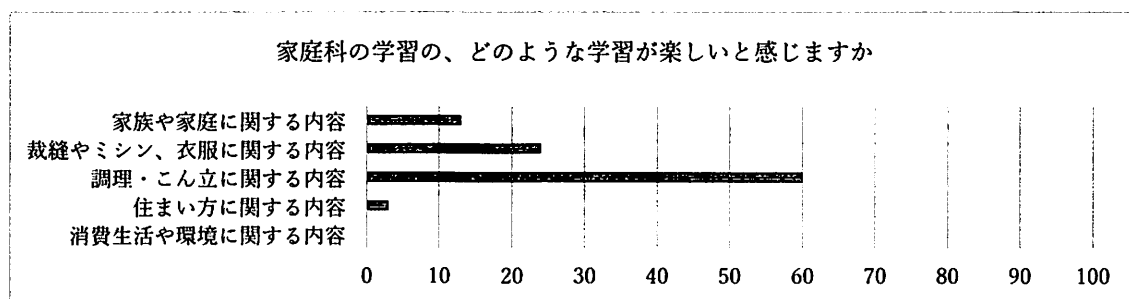
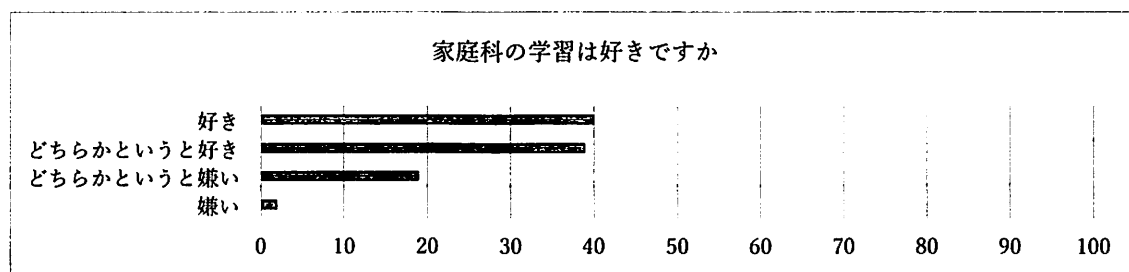


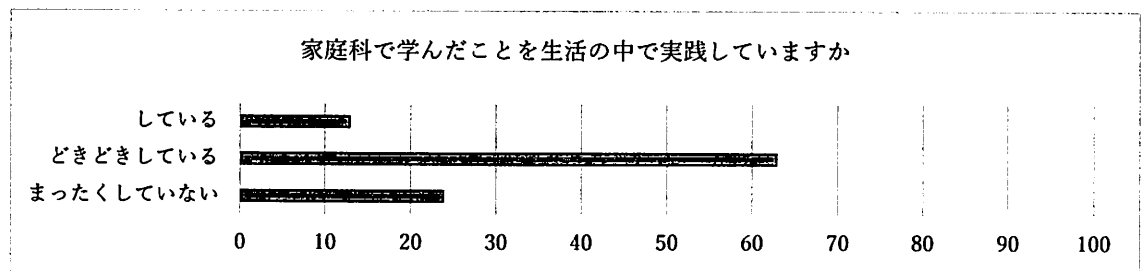
実践した内容

- ・お母さんの料理を手伝ったり、洗い物をしたりしている。
- ・食器をならべたり、さげたりしている。
- ・お風呂洗い。
- ・お米を炊く。
- ・休日にたまに料理やその手伝い。
- ・料理をしたり、そうじをしたりしています。



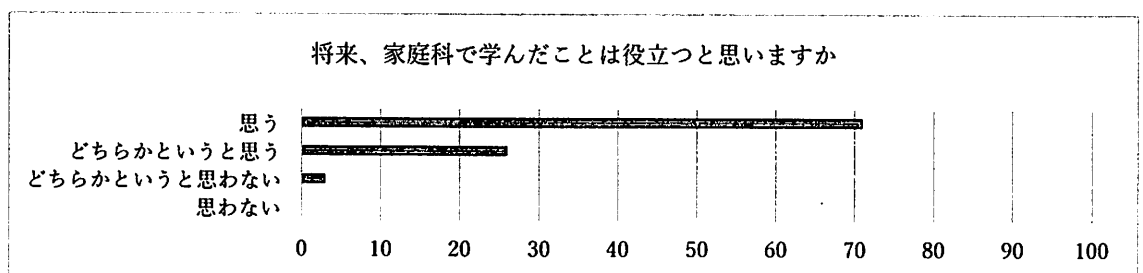
八街市立実住小学校第6学年





実践した内容

- ・ゴミの分別
- ・アイロンをかける。
- ・ボタンをつける。
- ・ミシンを使い、日常生活で使うものを作っている。
- ・クリーン大作戦で行った掃除方法で家の掃除をした。
- ・料理を作った。



どの学年においても家庭科の学習に対する興味・関心が高いことがわかる。また、家庭科の授業で学んだことが将来役立つと思っている児童も多い。しかし、実際に家庭生活に関わることを経験している児童は少なく、学習したことを家庭生活の中で実践するまでに至っていない。授業での体験が単発的になってしまい、継続していかないことや学んだことを生かしていく場が少ないことがわかる。そのような児童の実態から、家庭生活をイメージさせながら授業を展開し、学習したことを家庭で行う機会を設定し、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てたい。

研究仮説

研究主題

「日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成」

(1) 仮説 1

家庭生活と関連付けて考えさせることにより、より実生活にいかそうとする態度が養われるのではないだろうか。

- 〈手立て〉
- ・日常生活の中からの題材
 - ・日常生活で活用し、実践できるような課題

(2) 仮説 2

I C Tを活用し、学習内容を記録することにより、学習の振り返りがしやすくなり、基礎的な知識や技能を身に付けることができるのではないだろうか。

- 〈手立て〉
- ・思考ツールの活用
 - ・学習の記録（静止画、動画の撮影）
 - ・Q Rコードの読み取りによる模範動画

5. 研究の実践

八街市立川上小学校 第5学年

(1) 題材名 「食べて元気に」

(2) 題材について

(ア) 題材観について

B 衣食住の生活

(2) 調理の基礎

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。

(3) 栄養を考えた食事

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせる必要があることを理解すること。

本題材は、小学校指導要領家庭科編の以下の内容に基づく。

「食生活」の内容は、(1)「食事の役割」、(2)「調理の基礎」、(3)「栄養を考えた食事」の3項目で構成されており、これまでに児童は「B 衣食住の生活」の(1)「食事の役割」(2)「調理の基礎」について学習している。

ここでは、米飯とみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることや、調理の仕方を理解し、適切に調理ができるようにする。みそ汁の調理の仕方については、だしのとり方、中に入れる実の切り方や入れ方、みその香りを損なわない扱い方などを理解し、調理することができるようにする。また、栄養を考えた食事について、栄養素の種類と主な働き、食品の栄養的特徴について基本的な知識を身に付け、栄養のバランスを考えた献立を工夫することができるようにする。さらに、栄養を考えて食事をとることの大切さを理解することで自分達の体の成長に必要な栄養を自ら進んでとろうとする意識も合わせて育てていきたい。

本研究主題である「日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成」するため、家庭での実践計画を立て、保護者の協力を得ながら実践をさせたい。この体験により、児童がより食への興味関心や調理技術を高めたり、自分の体の成長や健康への意識を高めたりすることができると思う。

(3) 児童の実態

家庭科の授業を「好き・どちらかというと好き」と答えた児童が多く家庭科の授業への意欲の高さを感じられる。その中でも「調理・献立に関する内容」が楽しいと感じている児童が5割近く、「裁縫やミシン、衣服に関する内容」が楽しいと感じている児童が4割ほどいる。多くの児童が実習を行う単元に強く関心があることがわかる。また、家庭科の授業で学んだことが将来の役に立つと考えている児童が全員で実生活での活用の意識ももっていることがわかる。しかし、家庭科の学習が学校だけのものとなっており、実際に実践できている児童は2割ほどである。そこで、本題材を通して、実生活の中で実践する意欲を高めていきたい。

(4) 指導観

児童の実態から最も興味関心の高い「食生活」の単元で実践的な態度を育成することをねらいたい。「米飯やみそ汁」についての高い関心を生かして、「自分でも作ってみたい。」「家族にも作ってあげたい。」という思いをもたせながら家庭生活に生かせるようにしていきたい。総合的な学習の時間でも、4月から学校農園で米作りを行っており、実習では自分達で育てた米を食べることを楽しみに取り組んできた。

食事の役割や日常生活の食事については、食事は健康を保ち、体の成長や活動のもとになることや食事を一緒にすることで楽しい気持ちになることを今までの生活経験から思い起こさせることで実感を伴った理解を図りたい。

調理については、児童が直接食材に触れ、調理することで調理への意欲を高め、グループで協力し合うことで調理したものを一緒に食べる際の喜びや楽しさにつなげたい。また、調理の様子をタブレット端末で記録しておくことで実習の振り返りや実生活で実践する場合に活用できるようにしていきたい。

調理計画については、体に必要な栄養素の種類や主な働きについて理解させ、栄養を考えて食事をとることに視点を置き、児童の好みだけの組み合わせにならないように留意する。考えた組み合わせをグループで話し合う活動を通して、自分の考えた組み合わせが食事の目的にあったものかを見直すことができるようにしたい。

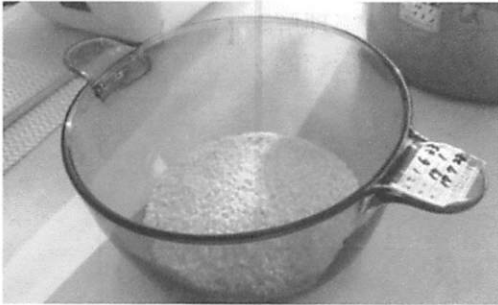
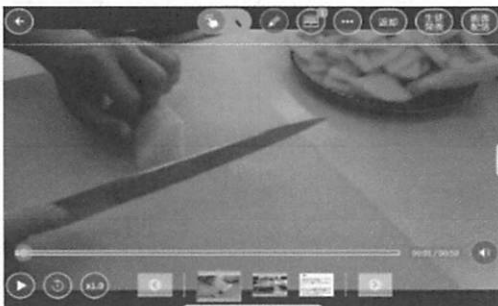
なお家庭での実践は家庭状況にもよるものであり可能な限りとし、家庭の状況に配慮するようにする。

(5) 題材における評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ②我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ③調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ④伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 ⑤食品の栄養的な特徴が分かり、体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解している。	①おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

(6) 指導と評価の計画 (10 時間扱い) (本時 8 / 10)

時 配	○ねらい・学習活動	評価規準 (観点) 【方法】		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	【仮説 1】 ○食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに、米飯とみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解する。 	知① 【発言】		
2	○日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合う。 ・世界の食事と日本の食事を比べ、和食のよさについて知り、米飯とみそ汁を日常的に食べている理由や米飯とみそ汁のよさについて考える。 ・普段どのようなおかずと一緒にみそ汁を食べているかを想起する。 ・これからの学習の見通しをもつ。	知② 【発言・ワークシート】		
3	○米飯とみそ汁の調理の仕方について問題を見だし、課題を設定することができる。 ・家庭で調べてきたことをもとに、米飯とみそ汁の調理の仕方について発表する。 ・おしく食べるために、米飯とみそ汁の調理の仕方について課題を設定する。 ・学習の計画を立てる。	知⑤ 【ワークシート】	思① 【ワークシート・観察】	
4	○伝統的な日常食であるみそ汁の調理の仕方を理解する。 ・大根、油揚げ、ねぎのみそ汁の実の切り方や入れ方について理解する。 ・みそ汁の調理手順を確かめる。	知③ 【ワークシート】		

5	【仮説 2】	知③	主①
6	○伝統的な日本食である米飯の調理の仕方を理解し、炊飯ができる。	【行 動 観 察・タブ レット P C】	【行 動 観 察・発言】
7	・グループごとに鍋を用いて炊飯し、米の変化を観察し、記録する。	知④ 【行動観 察・タブ レット P C】	
	 		
	【仮説 2】 ○伝統的な日常食であるみそ汁の調理の仕方を理解し、適切に調理することができる。 ・大根、油揚げ、ねぎのみそ汁を調理する。 ・調理の実践を交流し、試食する。 ・実習を振り返り、自己評価する。		
	 		

8 本時	【仮説 1】 【仮説 2】 ○「家族が元気になるオリジナルみそ汁」の実の取り合わせを工夫して考え、表現することができる。 ・実の選び方を考えるための視点を確認する。 ・「家族が元気になるオリジナルみそ汁」をつくるために実の取り合わせを考える。 ・友達と自分の実の選び方を比べ、自分の考えを深める。		思① 【発言・タブレットP C】	
9	【仮説 1】 【仮説 2】 ○「家族が元気になるオリジナルみそ汁」の調理計画を考え、工夫することができる。 ・みそ汁を調理する上で大切にしたいことを確かめる。 ・みそ汁の実の分量や切り方を考える。 ・みそ汁を一人で調理することを想定し、調理計画を立てる。 ・授業内で立てた計画をもとに家庭で実践する。	知③ 【発言・ワークシート・タブレットP C】		
10	○「家族が食べて元気になるオリジナルみそ汁」を調理したことを振り返り、家庭実践の計画を工夫・改善することができる。 ・うまくできたところやできなかったことをもとに解決策を話し合うことができる。 ・題材を振り返りできるようになったことや、これからの家庭生活で生かしていきたいことを考え、発表する。		思① 【発言・ワークシート・タブレットP C】	主① 【ワークシート・行動観察】

(7) 本時の目標

○おいしく食べるために栄養や旬、家族の好みなどを取り入れたみそ汁の実の取り合わせについて考え、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけることができる。

(思考・判断・表現)

(8) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 (観点) 【方法】	資料
3分	【見いだす】 1 ご飯とみそ汁の実習を振り返り、よくできたところや課題を発表する。 ・思っていたより上手にできたよ。 ・時間がかかってしまった。 ・切り方がバラバラになっていたよ。	・調理実習の振り返りを通して、学習問題をつかむ。	

5 分	2 学習問題を設定し、食事の役割について考える。 ・健康な生活を送るため。 ・栄養をとるため。 「家族が食べて元気になるオリジナルみそ汁づくり」の実の取り合わせを考えよう。	・食事の役割を考えさせることで、栄養面や健康面から実の取り合わせを考えられるようにする。	掲示物
10 分	【自分で取り組む】 3 オリジナルみそ汁の実を考え、ロイロノートに書き込む。 (実の取り合わせ) ・豆腐・大根・油揚げ・わかめ ・きのこ・人参・ (理由) ・栄養面から考える。 ・旬の食材から考える。 ・家族の好みから考える ・彩りから考える (ロイロノート)	・主菜「鮭」「卵焼き」「肉じゃが」を提示し、実の取り合わせを栄養面から考えやすくさせる。 ※実の食品があげられない児童には教科書を参考に選ばせるようにする。	タブレット端末

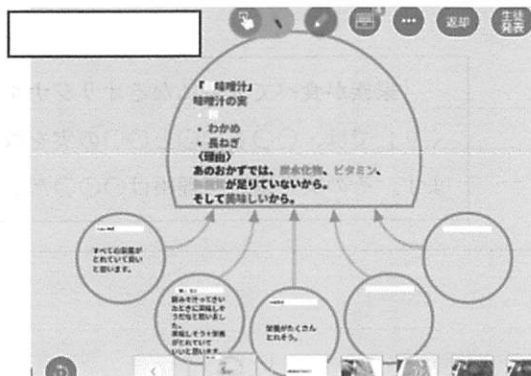
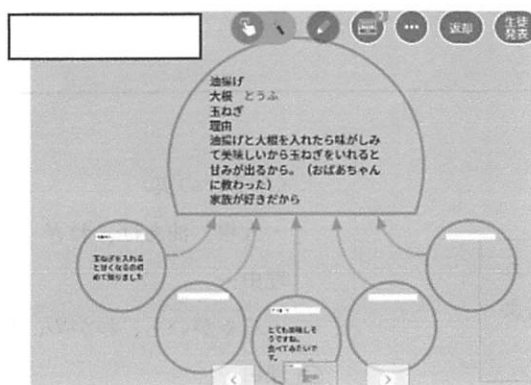
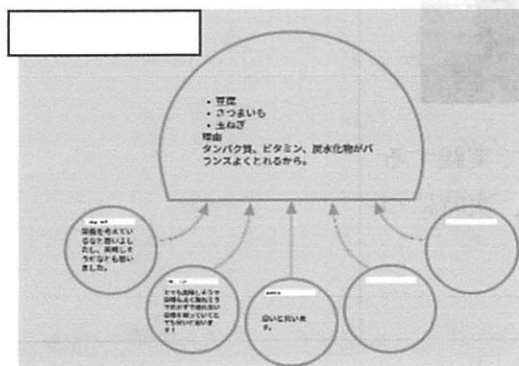
20 分

【広げ深める】

4 グループになり、何の実を選んだのか、
どうしてその実を選んだのかを発表し合
う。

予想される児童の反応

- ・ 家族が好きな実にしたよ。
- ・ 旬の食材を使ってみたよ。
- ・ 栄養がある食材にしたよ。

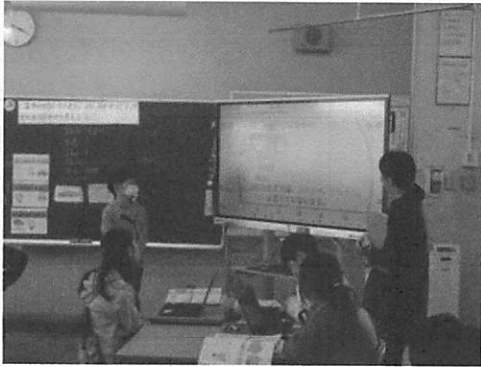


- ・ グループの友達の考えを聞
き、自分の考えと比べるこ
とで自分の実の取り合わせ
を見直す。
- ・ 見直して書き直す際は、文
字の色を赤字に変えさせ、
思考の変容がわかるよう
にする。

○おいしく食べるために栄養
や旬、家族の好みなどを取
り入れたみそ汁の実の取り
合わせをについて考え、考
えたことを表現するなどし
て課題を解決する力を身に
付けている。

【発言・タブレットPC】

タブレッ
ト端末

7分	【まとめあげる】 5 自分のオリジナルみそ汁の実の取り合わせと選んだ理由をまとめる。 「家族が食べて元気になるオリジナルみそ汁づくり」では、〇〇と〇〇と〇〇の実を取り合わせます。その実を選んだ理由は〇〇〇だからです。  6 オリジナルみそ汁作りを家庭で実践するために他に必要なことを確認し、次時につなげる。	電子黒板
----	---	------

(9) 板書計画

食べて 元気に ⑤ 「家族が食べて元気になるオリジナルみそ汁づくり」の実の取り合わせを考えよう。		〈みそ汁の実〉 ・大根、油あげ、ねぎ 理由… ・じゃがいも、わかめ、とうふ 理由… ・ ・
〈食事の役割〉 ・健康な生活 ・生きるため ・成長するため	〈実の取り合わせ〉 ・栄養面から考える。 ・旬の食材から考える。	「家族が食べて元気になるオリジナルみそ汁づくり」では、〇〇と〇〇と〇〇の実を取り合わせます。その実を選んだ理由は〇〇〇だからです。

(1) 題材名「持続可能な社会を生きる」 C 消費生活・環境(2)ア

(2) 題材について

(ア)題材観

本題材は、小学校学習指導要領家庭編の以下の内容に基づく。

C 消費生活と環境

(2) 環境に配慮した生活

ア自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。

イ環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。

本題材では、環境に配慮した生活について、自分の生活と身近な環境との関わりについて理解し、物の使い方などに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、環境に配慮した生活の仕方を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

自分の生活を見直すことを通して、多くの物を使っていることや、自分の生活が身近な環境から影響を受けたり、逆に影響を与えたりしていることを理解できるようにし、身近な環境をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成を図りたい。

これまでに児童は「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」に関する内容を学習しており、その中で「C 消費生活と環境」のうち「(1)物や金銭の使い方と買物」については学習している。購入した物の活用について振り返り、環境に配慮した物の使い方を見直してきた。また、B(2)「調理の基礎」、B(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」、B(6)「快適な住まい方」などと関連させて実習材料を無駄なく使うことを考えたり、ごみの分別や原料の仕方を工夫したりすることなども学習してきた。環境問題や資源の大切さについては国語科や社会科、総合的な学習の時間などでも扱っている。

自分の生活と環境との関わりを意識させ、実践に取り組むことを目指す。ただ我慢するのではなく、生活の充実と環境に配慮することをいかに両立させて生活していくか、考えられるようにする題材である。

(3) 児童の実態

実態調査では、本学級の児童は、家庭科の学習を好んでいる児童は約8割いた。肯定的な意見としては「調理実習が楽しいから」「自分でものを作ることが楽しいから」「班の人と協力して活動できるから」という回答が多かった。しかし、「めんどくさい」「裁縫やミシンが苦手」という否定的な意見もあった。家庭科の授業で好きな学習を問う質問では、調理実習や製作が多く、環境に関する回答はなかった。このことから家庭科の学習では、衣食には意識が高いが、住への関心や環境問題に対する意識が低いと考えられる。また、「習ったことを家庭で実践しているか」という質問では、実践している児童が1割しかいなかった。学習したことが実生活の中になかなか生かせていない。授業の中で好きな活動を問う質問では、「ICT 端末を使用してまとめる活動」が7割、「教科書やネットを使って調べる活動」「実際に体験する」が6割であった。

事前調査では、環境問題についての質問で、地球温暖化についての記述が多く、理解している児童が多かった。他には、食品ロスや海洋汚染、排気ガス、ごみの排出量などについて挙げられていたが、エネルギーに関する内容の回答はなかった。

(4) 指導観

児童の実態から、環境問題について調べ、自分の考えをまとめ、実際に取り組む活動を入れ日常生活につなげていけるような授業を展開していきたい。その際に環境に配慮した生活について、課題をもって、自分の生活と身近な環境との関わりについて理解することができるよう、これまでに学習した SDGs と関連付けて考えることができるようにする。

「生活と環境のつながりを考えよう」では、教科書の絵や自身の生活を振り返り、生活が環境に与える影響には何があるかを考えさせる。事前調査で回答のあった「地球温暖化」「環境汚染」「ごみの排出量」について扱うと同時に全く回答のなかった「エネルギー問題」についても取り扱い、新しい環境問題について考えられるようにしたい。

「物やエネルギーをどう使うか」では、ジグソー学習法を活用して調べ学習を進める。4つの環境問題を班で分け、自分が担当となった環境問題について、生活が環境に与える影響の具体例を調べ、まとめる際には、児童が扱いやすいロイロノートを使い、写真などを活用しながらまとめていく。自分が生活の中でできることについて考えさせることで実生活でも取り組めるようにしたい。

調べたことを環境問題ごとの班で報告し、自分でできることを班ごとに書き出す。自分の考えを書くことが難しい児童がいるため、クラス全体で書き出した意見を共有した後、もう一度自分が生活の中でできることを考える時間を設ける。考えたことについて家庭で取り組み、取り組んだ内容をロイロノートにまとめたり、グループで話し合ったりして環境に配慮した生活のための工夫について検討できるようにする。実践する態度を養うために、できるだけ実生活に近づけた実践を考えられるようにする。そこで、環境にできるだけ負荷をかけないよう物を長く大切に活用したり、無駄なく使いきったり、使い終わった物を他の用途に再利用したりすることが必要であることを理解できるようにする。「B 衣食住の生活」の内容との関連を図り、調理の材料や製作で使用する布などの具体的な物を対象として、自分の生活を見直し、物の使い方などについて問題を見いだし、がんばり宣言(実践目標)を設定する。

「環境のことを考えた生活を続けよう」では、学習した内容を家庭で実践している児童が少ないため、家庭で実践した活動についての報告会を行う。家庭でやってきたことを発表する機会を設けることで、生活と学習を結び付けられるようにしたい。

(5) 題材における評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分の生活と身近な環境との関わりについて理解している。 ② 自分の生活と環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。	① 環境に配慮した生活について問題を見い出して課題を設定している。 ② 環境に配慮した生活について考え、工夫している。 ③ 環境に配慮した生活について、実践を評価したり、改善したりしている。	① 環境に配慮した生活について課題の解決に向けて主体的に実践しようとしている。 ② 環境に配慮した生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

(6) 指導と評価の計画 (5時間扱い) (本時4 / 5)

題材	時配	ねらいと学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活と環境のつながりを考えよう	1・2	【仮説1】 ○自分の生活が環境に与えている影響について理解し、環境に配慮した生活を考えようとする。 - 教科書P.124・125のイラストや自分たちの生活から、生活が環境に与える影響について考える。 - 環境問題について生活が環境に与える影響の具体例について調べる。 【調べた環境問題】 海洋汚染 (海洋ごみ問題) 【自分たちの生活での原因】 ポイ捨て (全体の8割が街から)  1位…プラスチック (65.8%) 2位…自然物 (15.9%) 3位…木材 (7.3%) 八街は川がないし…と思っている人、違います！ △川にポイ捨てをしなくても、雨や風で川に流されていきます△ (けやきの森公園など) ポイ捨てがまちなかだとしても、ゴミが雨や風で飛んでいくと、川に流れつき、海洋ゴミになってしまうのです。	知① (行動観察、ロイロノート)		
物やエネルギーをどう使うか	3	【仮説2】 ○環境に配慮した物の使い方などについて理解し、課題を見いだして解決に向けて取り組みを考える。 - 調べたことをまとめる。 - 便利さや技術革新と環境への配慮の視点から生活のあり方について考える。	知② (ロイロノート、行動観察)	思① (ロイロノート、行動観察)	
物やエネルギーをどう使うか	4 (本時)	【仮説1】 【仮説2】 ○環境に配慮した物の使い方などについて理解し、課題を見いだして解決に向けて取り組みを考える。 - 前時までに調べ、まとめた内容を班に伝える。 - 自分ができる環境に配慮した生活について意見を出し合う。 - 実生活の中で自分にできることを考え、まとめる。		思② (ロイロノート、行動観察)	

環境のことを考えた生活を続けよう

5

○実践や家族等が行っていることをふり返り、環境負荷に配慮した生活を継続していこうとする。

- ・実践報告会を行う。
- ・調べた内容を共有し、生活の中から課題を見いだす。

実践報告書

項目	報告内容
いつ	学校から、家に帰ってきたあと
どこで	家のリビングで
なにを どのように	晴れた日は、カーテンを開けて太陽の光を取り込むようにした。
感想	太陽の光を取り込んでみると、暖房やエアコンを使ったときよりは1～2度くらいは違ったけれど、大体同じ温度になったので、今後も続けていきたい。

思③

(ロイロノート)

主①②

(ロイロノート、行動観察)

(7) 目標

○持続可能な社会構築の視点から、今後自分も家庭生活の中で取り組む内容や生活の工夫について考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

(8) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援○評価	資料・道具
8	【見いだす】 1 昨年度や前時の学習内容を振り返りながら、本時の学習内容を確認する。 ・現在の日本の環境の問題について4つ分けて考えたことを確認する。 ① 地球温暖化 ② 環境汚染 ③ ごみの排出量 ④ エネルギー	・今までに学習したSDGsや4つの環境問題を基に持続可能な社会について考えることを確認する。	
10	【自分で取り組む】 2 調べた内容を互いに報告し合う。 ・環境問題ごとの班で集まり、報告する。 ・生活が環境に与える影響について報告する。	・発表がスムーズに進行するように、進め方や報告内容を確認する。 ・発表を聞くときは、キーワードの線を引くように声をかける	

1 2	3	持続可能な社会に向けて班で話し合う。 ・環境問題ごとにより身近ですぐに実践できることについて話し合う。 ・話し合った内容を思考ツール(キャンディーチャート)にまとめる	・継続できそうな実践について考えるように声をかける	タブレット
1 0	4	【広げ深める】 班ごとに出た意見を全体で共有する。 ・班でまとめた意見をロイロノートで提出する。 ・ロイロノートで共有された意見を見比べる。	・意見がまとまった班から提出するよう伝える。 ・自分が実践できそうな意見を確認するよう伝える。	電子黒板
3	5	【まとめあげる】 自分の意見をまとめる ・環境に配慮した生活にするために実生活で実践・工夫したいことを「がんばり宣言」にまとめる。	・自分の考えを書くことが難しい児童には、全体で出した意見の中から選択するよう声掛けする。 ○持続可能な社会構築の視点から、今後自分も家庭生活の中で取り組む内容や生活の工夫について考えることができる。 (思考・判断・表現)【ロイロノート】	タブレット
2	6	本時の学習を踏まえて、次時の学習に対するめあてをもつ。	・家で実践することの確認をし、次時で報告会をするよう伝える。	

(9) 板書計画

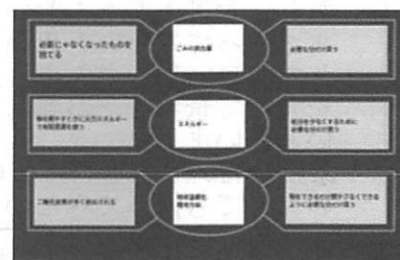
持続可能な社会とは
今も将来も満足できる社会

SDGsとは
人類がこの地球で暮らし続けていくために、
2030年までに達成すべき目標

④ 持続可能な社会のために、どのようなことが日常生活
の中でできるだろうか。

進め方

- ① 前時までに作成した表を掲示しながら報告を行う。
報告を聞きながらキーワードに線を引く
- ② 自分が実践できることを話あい、表にまとめる。
- ③ 全体で発表する内容を決める。



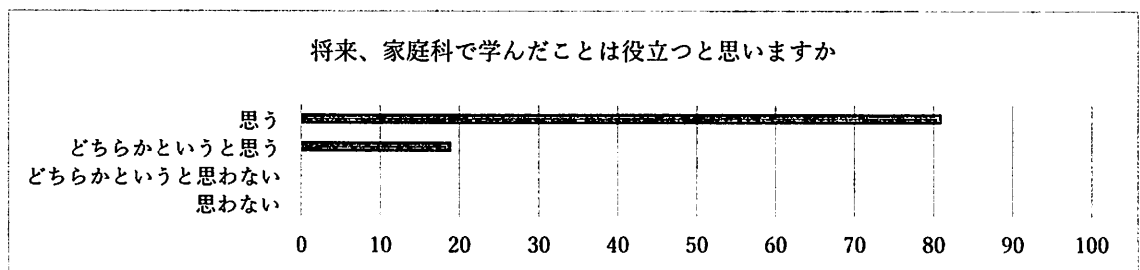
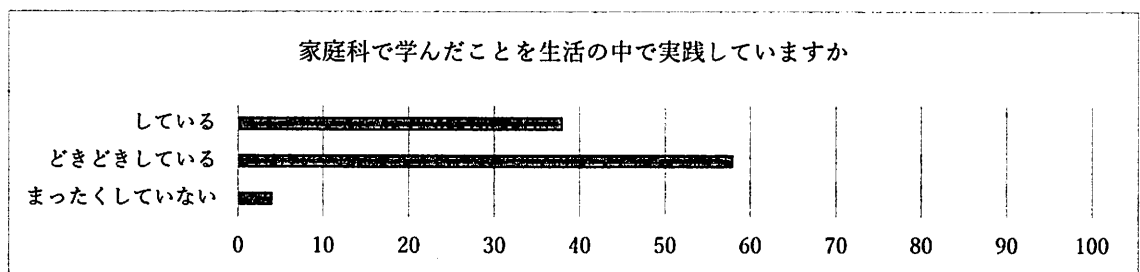
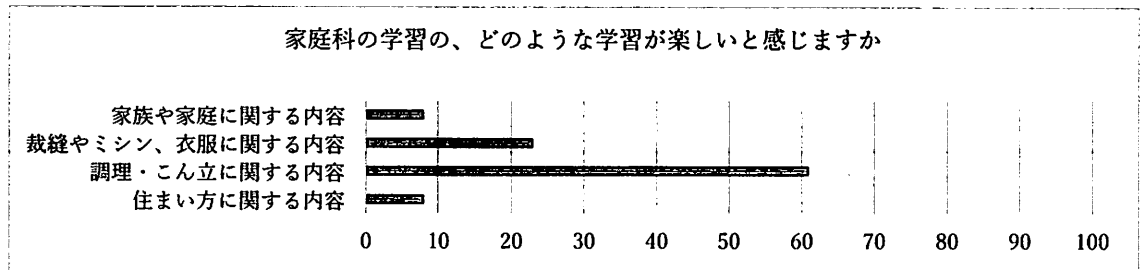
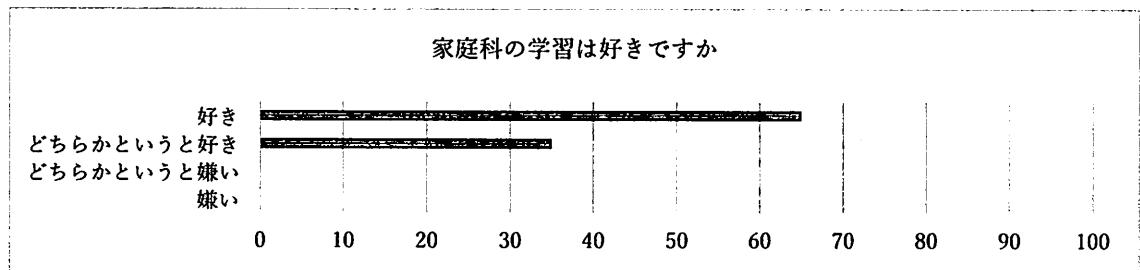
がんばり宣言
わたしは、

をがんばります。

6. 成果と課題

八街市立川上小学校第5学年

(成果) 実践後のアンケートでは、次のようになった。



〈授業後の児童の感想〉

- ・あんまりおみそしるを作ったことはなかったけれど、作ってみて、とてもうまかったし、お母さんからおいしいと言われたので、とてもうれしかったです。また作ってみたいと思いました。
- ・とてもおいしくできました。次は違う実で作りたいです。わかめが増えたあとのことを考えて量ることが難しかったです。おいしいみそ汁を作ってくれるお母さんはすごいと思いました。
- ・家族がおいしいと言っていたのでうれしかったし、みそ汁の作り方がわかったので他の具材でも作ってみたいと思います。

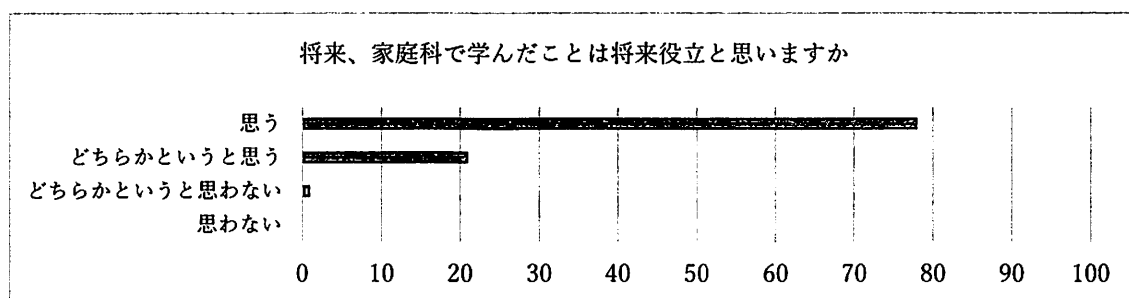
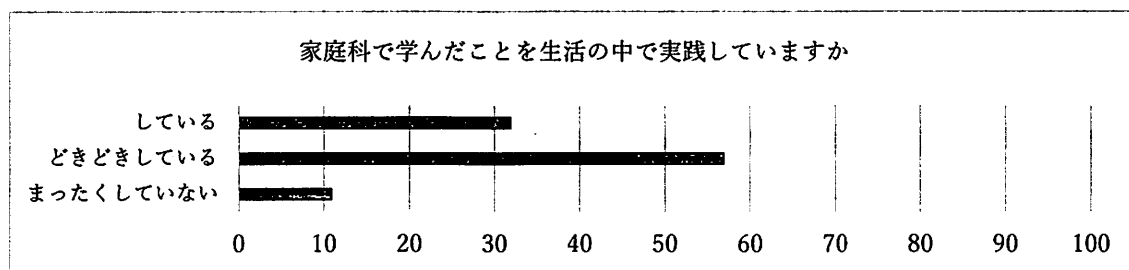
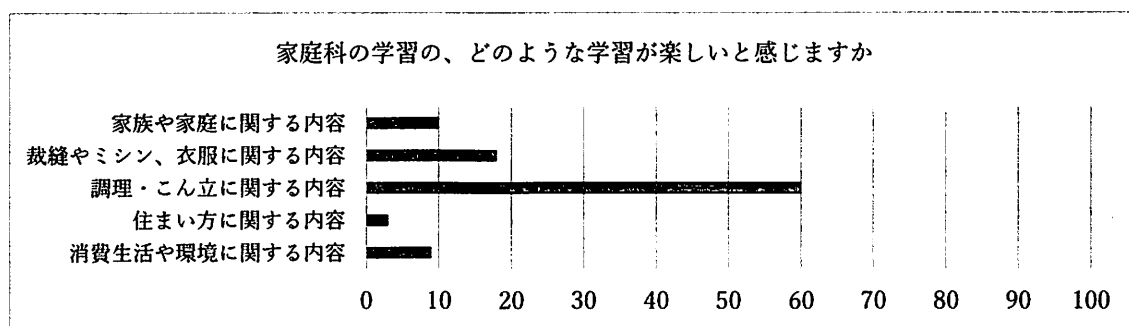
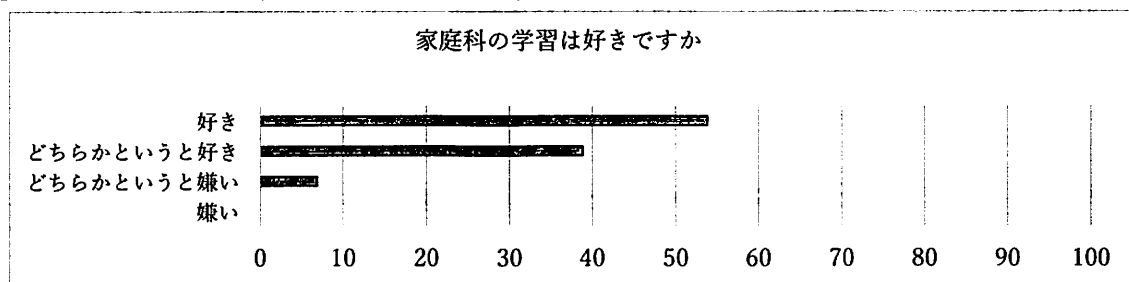
- ・本時の授業後にも2人の児童が実の取り合わせについて個別に質問してきたことから、児童の実態に合った単元を設定することで、実生活で実際にやってみようという意欲を高めることにつながった。
- ・ICT機器を活用することによって個人の学習の記録を残すことができ、振り返りがしやすくなった。また、動画撮影で実際に自分の作業の様子を振り返ることができ、実生活で行う際の参考とすることができた児童も数名いた。

(課題)

- ・グループでの発表では主菜が同じ児童で組んで意見交換をさせてみることで、より栄養面への理解や全体のバランスについても考えが深められたかと思う。
- ・家庭での実践には個人差が大きく、「やりたかったけどできなかった。」という児童の声も聞かれた。実生活でやってみたい、やってみようという意欲を高めることはできたと感じる。実践していくには保護者の協力も不可欠となるため、授業参観や懇談会などで協力をお願いするなど、保護者への手立てを考えていきたい。また、他の家庭科の単元や他教科においても地域や家庭との交流を積極的に行っていくことも必要であると感じた。

八街市立実住小学校第6学年

(成果) 実践後のアンケートでは、次のようになった。



〈授業後の児童の感想〉

- ・思っていたよりも電気や水を使っていてびっくりした。節電や節水をこれからも続けていきたい。
- ・弟がつけっぱなしにした電気を消すことができた。これからも意識したい。
- ・自分ができることを続けていくことで環境も変わってほしいと思った。

- ・これまでの学習をロイロノートに残すことで本時の取り組みがスムーズだった。
- ・思考ツール(キャンディーチャート)を活用することで環境問題と実生活の関係を考えることができた。
- ・がんばり宣言を作ることで、自分事として考えることができた。
- ・実践報告書を作成し、学級で共有することで、できる活動を知り、実生活で取り組んでみたいという意欲が生まれた。
- ・ICT(ロイロノート)を活用し、学習した内容を残すことで、常に家庭生活を頭に入れて学習に取り組むことができた。

(課題)

- ・導入で持続可能な社会や SDGs の説明をする際に抽象的な言葉を使ったため、焦点化することができなかった。
- ・持続可能な社会の定義が参照する資料によって異なったため、曖昧になる部分があった。
- ・SDGs や環境問題は他の教科や学年でも取り組まれていたため、どのような形で授業に取り上げられているか把握する必要がある。
- ・持続可能な社会のために一人一人ができることが限られており、日常生活で実践することにも限りがあることが課題であった。
- ・生活経験が少ないため、実生活と関連付けて考えることが難しかった。

7. 研究のまとめ

本研究では、「日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成」を目標とした。特に「実践的な態度」をどう育てるかに重点を置いて取り組んできた。

児童の興味関心に合った題材を設定することで、児童が意欲的に学習に取り組む姿を見ることができた。意欲的に取り組む過程で、児童の中に実生活で行うことがイメージでき、実践的活動につなげることができた。実生活においての実践的活動を通して、学校だけでは体験することのできない家族とのやりとりや実生活の中での新たな発見や気づきを得られたことは大きいと感じた。しかし、一度の実践で満足してしまっている様子もあり、継続して「実践的な態度」の育成に取り組んでいくことでより児童の実践する力を付けていくことが大切であると感じた。今回、5年生と6年生で違う題材で取り組んだが、どちらも実践的な態度を高めることができた。このことから、他の題材でも同じように取り組むことにより、児童の視野が広がり、興味関心も深まり、実践する場が拡大していき、より実生活をイメージして学習に取り組むようになっていくと考える。

また、ICTを効果的に活用し、学習内容を様々な方法で記録することにより、学習の振り返りがしやすくなり、基礎的な知識や技能を身に付けることもできた。

研究を通して、家庭科の学習について学んできたが、家庭科という教科が小学校では高学年の担任もしくは専科となることが多く、指導引き継いでいくための学校内での工夫も必要であると感じた。

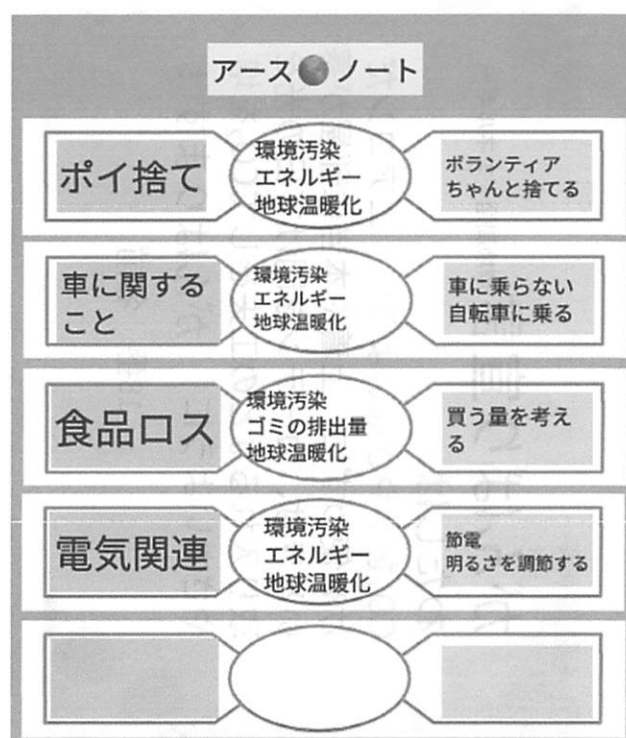
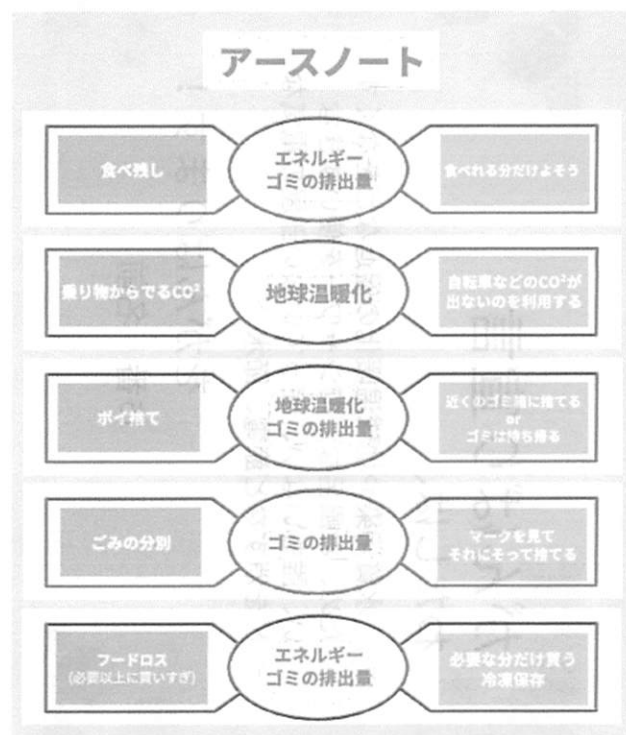
日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、実践する態度の育成

資料編

第4部会 技術・家庭科研究部
八街市立川上小学校 小山 和佳
八街市立実住小学校 西崎 夏芽

6年生【持続可能な社会を生きる】

アースノート



がんばり宣言

わたしは、

エネルギーなどの環境問題を悪化させないために、節電（使わない部屋の電気は消す）や節水（水を出しっぱなしにしない）

をがんばります！

5 番 名前

がんばり宣言

わたしは、

地球温暖化を解決するために
プラスチックゴミなどを分別する。
歯磨きのときに水を出しっぱなしにしない。
使わないときには部屋の電気を消すなどの
節電、節水、ゴミの分別

をがんばります！

36番 名前

がんばり宣言

環境問題…エネルギー

わたしは、

CO₂を増やさないように、エアコンだけを使わずに、上着や本当に部屋が寒いときは、カーテンを開けて日の光を取り入れるなどの工夫をしてCO₂を増やさないように

がんばります！

18番 名前

がんばり宣言

わたしは、

水質汚染や地球温暖化の促進などをなくすため、お風呂などでシャワーを使いすぎない、誰もいない、使っていない部屋の電気などを消すなど節電、節水

をがんばります！

15番 名前

実践報告書

項目	報告内容
いつ	3月1日～3月7日
どこで	自分の家で
なにを どのように	使っていない部屋の電気を消す シャワーや水の使いすぎに気をつける
感想	使っていない部屋の電気は普段つけっぱなしにしたりすることが多かったからそれが少し癖になっていた 朝洗面台の水が冷たいと言って温かくするために水を出しっぱなしにしてしまうことが多かった

1/1

実践報告書

項目	報告内容
いつ	2月29～3月5日まで
どこで	家で
なにを どのように	自分が通ったところの電気がついてることが多かったから自分が通ったところから電気消した 節水は手をハンドソープで洗っているときに水を出しっぱなしにしていたから止めて洗うようにした
感想	節電・節水をしてみて 自分が思った以上に電気や水を使っていたびっくりしました

1/1

実践報告書

項目	報告内容
いつ	ほぼ毎日？
どこで	リビング
なにを どのように	誰もいない部屋の電気を 消したり、細かく節電・節水をした。
感想	細かく見ると、意外とつけっぱなしなものなどがあって、これからはもっと気をつけていこうと思った。

1/1

実践報告書

項目	報告内容
いつ	学校から、家に帰ってきたあと
どこで	家のリビングで
なにを どのように	晴れた日は、カーテンを開けて太陽の光を取り込むようにした。
感想	太陽の光を取り込んでみると、暖房やエアコンを使ったときよりかは1～2度くらいは違ったけれど、大体同じ温度になったので、今後も続けていきたい。

1/1